

水田決議の実現に向けた 田んぼの生物・文化多様性 向上2030プロジェクト

金井 裕

ラムサール・ネットワーク日本



MS&AD

MS&ADインシュアランスグループ



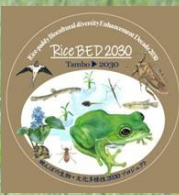


- 日本の田んぼの生物多様性と脅威
- 水田決議と田んぼ生物・文化多様性向上
- 田んぼ生物・文化多様性向上2030プロジェクト (RiceBED 2030)

生物文化的多様性

水田目標2030

- 「ネイチャー・ポジティブ」と世界の田んぼ



田んぼ 人間と野生生物の ワンダーランド

食料供給



生きものの住処



田んぼは

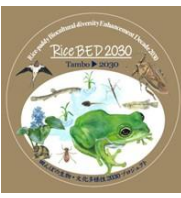
美しい農業－湿地生態系





資源としての 水田の野生生物

- ・持続可能な農業のための
農業資源
- ・持続的に利用される
地元の食料資源
- ・豊かな景観を生み出す
バイオ資源



田んぼの生物多様性への脅威



農薬と除草剤



急激な農業環境変化による水田と水路の変化



中干延長による夏季の乾燥

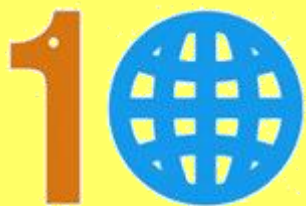
2008年ラムサール条約 第10回締約国会議（韓国・昌原） で採択された水田決議X.31



- ・水田が農地としての機能以外に、豊かな生物多様性を支える広範な湿地機能を持つことを国際的に認知させる。
- ・CBD/COP10(2010)とラムサール決議を組み合わせるための橋渡しが必要

日韓両政府が提唱し、両国のNGOが支援。

2010年10月、名古屋で開催されたCBD COP10で採択。
決定 X/34: 農業の生物多様性
2020年までの生物多様性回復のための
20の生物多様性愛知目標



NGO Initiative for UN
Decade of Biodiversity

国連生物多様性の10年 (2011-2020)



RiceBEDプロジェクト

田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト

田んぼ
(ラムサール+CBD)

国レベル

地方レベル

コミュニティ
レベル

生物多様性愛知目標,
CBD COP10;
Tgt#; 1, 3, 4, 7, 8, 9, 11, 14, 17, 18

水田の生物多様性向上10年プロジェクト キックオフシンポジウム (2013年2月9日、小山市)



さまざまな分野から50以上の団体や個人が参加
農家、環境NGO、地方自治体、科学者、企業、学校の
教師など、さまざまな分野から50以上の団体や
個人が参加。



田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」の成果

このプロジェクトには、300を超える個人や団体が参加し、活動してきた。

2020年以降の生物多様性世界枠組み

SDGs:持続可能な開発目標



Rice-paddy
Biocultural-diversity
Enhancement Decade 2030
(Rice-paddy 2030 Project)

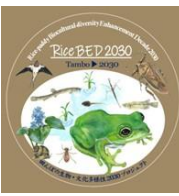


Rice-paddy Biocultural-diversity Enhancement Decade 2030

Published by Ramsar Network Japan

Aoki bldg, 3FL, 1-12-11 Taito, Taito-ku, Tokyo, Japan
T.F (+81)3 3834 6566

URL <http://www.ramnet-j.org/> <http://www.tambo10.org>
e-mail : info@ramnet-j.org



生物・文化的多様性

景観

文化

地元の人々

生きものたち

水田目標 2030 一覧

水田目標	内容
T. 1	流域の生物多様性の向上
T. 2	田んぼの生態系の回復・再生と、未来への継承
T. 3	田んぼの生物多様性を育む農業システムの管理下への組み込み
T. 4	田んぼの生きものの保全・回復
T. 5	田んぼの生きものの遺伝的多様性の保全・回復
T. 6	人と生きものとの共生
T. 7	田んぼの外来生物への対策
T. 8	稲作による汚染・環境負荷の低減
T. 9	田んぼを通じた気候変動対策
T.10	伝統的農法・水管理の再評価と田んぼの生きもの利用促進
T.11	田んぼによる災害被害の低減と回復
T.12	都市環境保全と田んぼとの連携
T.13	地域・風土に適応した品種の開発・保全
T.14	田んぼの生物多様性保全政策の実施
T.15	田んぼの生物多様性保全を推進する企業活動の発展
T.16	市民の価値観・行動の変革による生物多様性を育む農業の主流化
T.17	バイオテクノロジーによる悪影響への対処
T.18	生物多様性を育む農業に有害な補助金の削減・改善
T.19	生物多様性を育む農業支援の確保
T.20	生物多様性を育む農業への地域の伝統・知識・経験の活用
T.21	市民・NGOなどの政策・施策・事業など意思決定への参加の確保
T.22	国内外の組織・機関や団体との協働の推進

A：田んぼとその周辺で生物多様性を保全する活動

田んぼの生きものを回復し増やす

田んぼの生きものと社会課題を解決する

①農産物の消費・流通

②農産業への投融資

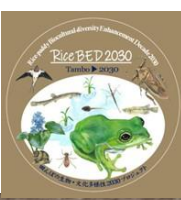
③普及広報・教育

政策・施策

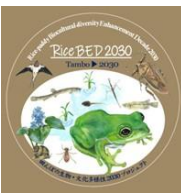
国際連携

B:Aを支え、社会を変える活動

T. 2. 生態系の回復と復元を確実にし、次世代に引き継ぐ。



蕪栗沼の農家



T. 4. 生物の保全と回復の確保新

収穫後に溝を作り、水を保つ
(小松島市生物多様性農業推進協議会)



水田魚道(愛知県農業研究センター)

カエル脱出ネット
(愛知県農業研究センター)



T. 10. 伝統的な農法や水管理を見直し、生物の持続可能な利用を推進する。



ドジョウ



コナギ



T. 16. 生物多様性を高める農業を主流にするため、人々の価値観や行動の変化を促進する。



消費者の購買意欲を高める
生物多様性に配慮した製品



生物多様性に配慮した製品を供給
するための食品事業の強化



田んぼで体験学習



田んぼの生き物調査

第9回
田んぼの生物多様性向上
10年プロジェクト
地域交流会 in 愛知(豊田市)

サシバの すめる 水田作り

日時 2018年 6月17日 日

第I部 / 田んぼめぐり (カエルの谷 矢立湿地) 10:00~12:00

第II部 / 地域交流会 13:00~17:00
会場: 豊田市自然観察の森ネイチャーセンター研修室
※詳細は裏面をご覧ください。

参加費
無料

サシバ
撮影: 篠井義志

起伏に富んだ丘陵に湧水湿地と各津田が散在する東海丘陵に位置する豊田市自然観察の森では、サシバがすめる森と田んぼや湿地の復元に取り組んでいます。また森に接する水田で稲作を営んでいる農家の方々や地域の農業関係団体、行政、企業、NGOなども連携して、多くの生きものたちとともに暮らし地域づくりの試みを行っています。

ラムサール・ネットワーク日本では、この取組をいっそう進めるために、豊田市自然観察の森と連携して、田んぼの生物多様性向上10年プロジェクトの地域交流会を開きます。

アカトンボ、カエルたち、田んぼの生きものたちとお米との関係をいっしょに考えてみましょう。

「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」は、ラムサール条約および生物多様性条約の締約国会議で採択された、田んぼの生物多様性向上に関する決議の内容を具体化するため、多様な取り組みの受け皿となることを目指し、ラムサール・ネットワーク日本によって立ち上げられたプロジェクトです。

そのなかで地域交流会は、田んぼの生きものに關心を持つ人々の輪を広げるため、環境省、農水省、地元自治体、全国各地で活動を展開する団体や個人と協力し、全国各地で開催しています。

主催: NPO法人ラムサール・ネットワーク日本 共催: 豊田市自然観察の森(指定管理者: 日本野鳥の会)
後援: 環境省中部地方環境事務所、農林水産省東海農政局、愛知県、豊田市、JA全農、JAあいち豊田
協力: (公財)日本野鳥の会 (NCEBA2018プレイベント)



T. 21. 政策、施策、プロジェクトに関する意思決定に、女性や若者だけでなく、地域コミュニティやNGOの参加を確保する。



2018年10月豊田市での地域交流会



ネイチャー・ポジティブに
向けて



ご清聴ありがとうございました

アジア・アフリカ・新熱帯地域まで
田んぼのあらゆるレベルをカバーする

RiceBED2030プロジェクトに参加しませんか？

<http://www.ramnet-j.org/tambo10/>

